

新党日本代表 田中康夫 質疑
2011/02/16(水) 13:26~13:30

第177回国会(通常国会)
衆議院 予算委員会

外交・安保(TPPを含む)についての集中審議



さあ、信じられる日本へ。

新党日本
nippon-dream.com

○中井委員長 次に、田中康夫君。

○田中(康)委員 田中康夫です。与党統一会派、国民新党・新党日本を代表して、本日はTPPのなぞに關してただしく思います。

昨年秋から私は、独立国家日本を二十一世紀の米連邦化の従属へと画策する羊の皮をかぶったオカミ、トロイの木馬がTPPだ、このように申し上げてまいりました。なぜならば、日本は貿易立国で、とうの昔に開く国、開国済みなわけでございます。仮に至らない点があるならば、本会議の代表質問でも申し上げたように、改める国、改国を行えばよいわけです。

ところが、最近とみにランナーズハイな躁状態でいらつしやる菅直人さんは、第三の開国、黒船襲来と、時代錯誤な単語に酔いしれていらつしやいます。しかし、私は、逆に、哲学も覚悟も持ち合わせぬ指導者のもとで、物品貿易の全品目に加えてサービスや人の移動のすべても例外なく関税

の即時撤廃を強いられる無理無体なTPP交渉参加へ猪突猛進をすれば、日本は壊国、すなわち壊す国、破滅する国家の壊国だと考えております。

ただいま、円グラフをごらんくださいませ。TPP交渉参加九カ国に日本を加えた各国のGDP、国内総生産の比較です。ラジオでお聞きの皆様にも御説明いたしますと、アメリカが全体の約七〇%、日本が約二〇%、オーストラリアが約五%、残りの七カ国、シンガポール、ブルネイ、チリ、ニュージーランド、ペルー、ベトナム、マレーシアで約五%でございます。

菅直人さん、この円グラフをあらかじめお渡しした上で質問通告しておりますので、御見解をお願い申し上げます。

○菅内閣総理大臣 少し田中議員の決めつけが最初にあるわけです。

まず、TPPに關しては、現在は、情報収集を含めて関係国との協議をいたしております。

それから、私の問題意識の最初には、この十年余り、日本のいわゆる経済連携が他の韓国等に比べて非常におくれていた。それは、FTA、EPA、あるいはいろいろな地域的な連携も含めてであります。そういう中の一つとしてTPPがあることは事実であります。何か、このTPPだけに決め打的に何かをしようとしていることを前提に御質問されるのは、私は、国民の皆さんに誤解を招くのではないかと。

それに加えて言えば、農業の改革はやらなければならぬ改革でありまして、そのことをしっかりとやることと、必ずしもTPPに限りません、今、

例えばオーストラリアとのEPAの交渉もやっておりますけれども、そういうことも、両立するにどうするかということとそれぞれ頑張つて交渉に当たつていただいている、こういう認識を持っております。

○田中(康)委員 ですから、これは、ごらんいただくように、米国の輸出先はほぼ日本だけになつて、日本の輸出先はほぼ米国だけになるわけです。

そして、今、菅さんは腰砕けな発言をなさしましたけれども、まさにブラジルもインドも、そして韓国も中国も環太平洋であります。しかし、これらの国々は、TPPではなく、FTAやEPAなわけでございます。

現に、きのう外務大臣も、韓国とのEPA交渉の早期再開をと。農林水産大臣も、オーストラリアとのEPAの早期締結をと。そして、現に菅さんは、けさ九時に、インドというまさに経済立国、貿易立国である国とEPAを結んだことが大変な経済効果だとおっしゃつていらっしゃるじゃないですか。

では、なぜ、韓国のように、アメリカともきめ細かいFTA交渉を行わないんですか。なぜ、アメリカの米連邦化、私たちはアメリカと一緒に世界をよくするためのものに、中国やそのほかの国々をあえて敵に回すようなTPPというものありきという発想は、私はまさしくこれは壊国であると思ひます。まさに売国許すまじ、この点を最後に申し上げます、私の質問を終わります。

○中井委員長 これにて田中君の質疑は終わりました。